

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 揖斐高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和8年9月29日(火) 10:00～12:00
- 3 開催場所 揖斐高等学校 校長室
開催にあたり、委員による学校行事参観(文化祭)を実施した。
- 4 参加者

会長	長沼 健治郎	本校同窓会	会長
副会長	鷺見 千恵子	本校PTA	会長
委員	杉山 砂里	本校PTA	副会長
	服部 均	揖斐川町商工会	会長
	服部 幸弘	いび川農業協同組合	代表理事専務
	立木 一美	NPO法人いびわんすと	理事長
	小谷 和彦	揖斐川町歴史民俗資料館	館長
	高橋 真紀	揖斐川町健康福祉課	主幹
学校側	衆原 利樹	校長	
	棚橋 英一	教頭	
	関谷 一紀	事務長	
	杉山 福美	教務主任	
助言者	香田 静夫	揖斐川町教育委員会	教育長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校評価アンケートについて

- ・ 「わからない」という回答の背景には、学校の取組に関する情報発信が十分でないことも考えられるとの意見があった。
- ・ 「わからない」という回答について、数値だけを見るのではなく、理由や背景まで把握する必要があるとの意見があった。今後は「わからない」の理由を記述できる欄を設けるなど、要因を具体的に把握できる方法を検討する。
- ・ 揖斐川町教育委員会から、町の広報紙「広報いびがわ」に学校の取組を紹介するページを設け、写真等も活用して町民へ発信してはどうかとの提案があった。
- ・ ホームページや新聞、広報紙だけでなく、地域住民が実際に学校を訪れ、生徒や教職員と関わり、学校の良さを周囲に伝える「ロコミ」も重要であるとの意見。

(2) 文化祭の見学から

- ・ 3年生について、来校者への声掛け、丁寧な説明、相手に楽しんでもらおうとする姿勢、大人や地域住民とのコミュニケーション能力が高く評価された。
- ・ 校内やトイレが清潔に保たれていること、来校者に自然に挨拶する生徒が多いことなど、日常的な指導の成果が高く評価された。一方で一部生徒のみだしなみについては、行事と日常生活のメリハリを意識させながら、引き続き適切な指導を求める意見があった。
- ・ 文化祭を毎年行う行事として捉えるだけでなく、「何のために行うのか」という目的や教育的意義を生徒に理解させることが大切との意見があった。
- ・ 9月の揖斐川町議会において本校の魅力化に関する一般質問があったことが紹介された。地域の生徒が地元高校へ進学し活躍できる学校づくりとともに、地域に必要とされる学校として存続・発展していくことへの期待が示された。学校側からの発信だけでなく、地域住民自身が学校に関心を持ち、学校を訪れ、生徒や教職員と交流することも重要である。今後は安全管理に配慮しながら、生徒が地域に出て学ぶことと、地域住民が学校に入ることの双方を進め、「双方向の関係づくり」を推進していく必要性を提案。

(3) 地域と連携した教育活動について

- ・ 地域医療講座や施設研修、ワークショップ等を通じ、医療・介護分野への関心が高まっているとの報告があった。参加者の介護施設への就職や医療関係への進学など、継続的な取組の成果も見られ、次年度以降の連携継続への期待が示された。
- ・ 夏季休業中の行政体験等で、生徒が地域施設において前向きに学ぶ姿が見られ、新聞等にも紹介された。生徒が地域に出て活動する機会が増えていることが評価された。
- ・ 地元食材を活用したメニュー開発など、地域の事業者・関係団体との協働について紹介があった。生徒の学びと学校・地域双方のPRにつながる取組として、今後の継続が期待された。
- ・ スケートボード等、校外で熱心に活動する生徒が話題となり、多様な特技や可能性を持つ生徒が、自らの活動や思いを発表できる機会を設けてはどうかとの提案があった。
- ・ 他校で行われている高校生による高齢者宅訪問等が話題となり、本校でも地域や社会福祉関係機関等と連携し、生徒の学習内容や専門性を生かした地域貢献活動を検討してはどうかとの意見があった。

6 会議のまとめ

- ・ 学校の教育活動そのものについては、生徒・保護者・委員から概ね高く評価されていることが確認された。一方、**学校が実際に行っている取組が、生徒・保護者・地域に十分伝わっていないことが大きな課題**として共有された。